

## 水循環マスタープランとは？

流域を中心とした一連の水の流れの過程において、水に係わる総合的な整備・保全・管理を目指すため、河川環境のみならず、都市環境などの地域特性を踏まえた**水循環系の健全化に関する総合的な計画**です。

## 新河岸川流域水循環マスタープランの「計画理念」

### 「人と水とみどりがつながりあう魅力ある流域づくり」



流域の水循環系の健全化を目指し、水とみどりが豊かな流域づくりを目指します。また、人々が理解・協力しあい、やりがいをもって水循環系再生の取り組みを行い、新河岸川流域を訪れたり、住みたくなるような魅力ある流域づくりを目指します。

魅力ある流域となれば、さらに人々の水循環に対する興味や取り組みへの理解が高まり、一連の取り組みがつながり続け、将来にも豊かな流域を引き継ぐことができます。

## 「基本方針」と「計画目標」

計画理念を実現するため、4つの基本方針を掲げています。これら4つの基本方針は、マスタープランの策定検討の過程で行政や市民の意見を基に抽出した新河岸川流域の共通課題に対応する形でそれぞれ設定しています。

### ■新河岸川流域の共通課題

- 1 河川改修や流出抑制対策など総合治水対策の推進
- 2 流域内の健全な水循環に寄与する緑地農地や湧水の保全
- 3 各河川の現状や特性に応じた親水性の向上
- 4 市民を対象とした啓発・広報・教育活動による水循環への理解促進

※ 各基本方針は下図参照

- ⇒ 【基本方針1】と対応
- ⇒ 【基本方針2】と対応
- ⇒ 【基本方針3】と対応
- ⇒ 【基本方針4】と対応

基本方針1～基本方針3の実現にあたっては、各種の取り組みを実施していくことが必要です。また、基本方針4の実現にあたっては、各種取り組みの推進に向けての連携方策を実施していくことが必要です。

新河岸川流域水循環マスタープランの計画理念の実現に向けては、取り組み方策と推進方策が計画推進の両輪となって、さまざまな取り組みを実施していくことが重要です。

基本方針1～基本方針3に対しては、各種取り組み実施によって実現したい社会を示す計画目標を設定しました。

### 【計画理念】人と水とみどりがつながりあう魅力ある流域づくり

#### 【基本方針1】

人命被害や社会経済被害を極力軽減する安全・安心な社会の構築

#### 【基本方針2】

自然環境が保全され人間社会の営みとの適切なバランスを保った水循環系の実現

#### 【基本方針3】

流域の水辺に多くの市民が集う水辺環境や自然環境の形成

#### 【基本方針4】

人と人が水を通じてつながりあう社会の構築

### 【取り組み方策】

【計画目標①】総合治水対策の推進

【計画目標②】水防災意識社会の実現

【計画目標③】地下水涵養の促進

【計画目標④】適正な水利用の推進

【計画目標⑤】豊かで清らかなながれの確保

【計画目標⑥】市民が集う水辺環境の形成

【計画目標⑦】多自然川づくりの推進

### 【推進方策】

連携・協働、市民参加、環境学習・防災教育

## 基本理念の実現に向けた「取り組み方策」と「推進方策」

計画目標の達成に向けて、流域で取り組むべき方策を定めました。(マスタープラン本編には、具体的な施策の例が掲載されています。)

QRコード



マスタープラン掲載HPにアクセスできます

### 【基本方針1】

【計画目標①】総合治水対策の推進

**流域対策**：みんなで雨水をためて ゆっくりとながす流域をつくる

**河川対策**：河川からの氾濫を防ぐ (目標：志茂橋530m³/s)

【計画目標②】水防災意識社会の実現

**そなえ**：浸水しても被害を小さくする流域をつくる

**防災用水**：いざというときに備えて さまざまな方法で水を蓄える

### 【基本方針2】

【計画目標③】地下水涵養の促進

**浸透**：雨をしみこませる (目標：年間降水量の1/3を地下へ浸透)

【計画目標④】適正な水利用の推進

**水利用**：水をリサイクルし、地下水を適正に保全・管理する

【計画目標⑤】豊かで清らかな流れの確保

**ゆたかな水**：ふだんの川にゆたかな水をながす

**きれいな水**：排水をよりきれいにしながら

### 【基本方針3】

【計画目標⑥】市民が集う水辺環境の形成

**水辺**：人々が憩う身近な水辺環境をつくる

【計画目標⑦】多自然川づくりの推進

**生態系**：多様な命を育む 水とみどりのネットワークをつくる

### 【基本方針4】

**連携・協働**：流域の人々のつながりをつくる

**市民参加**：流域の人々の意欲と経験を活かす

**環境学習・防災教育**：次代を担う子どもと川をつなぐ

## 新河岸川流域水循環マスタープランのフォローアップ(今後の展開)

マスタープランの計画理念の実現のため、行政機関だけではなく、流域の市民団体等、学識経験者、企業その他と連携・協働し、流域一体となって以下のフォローアップを展開していきます。

### 【アクションプランの策定】

- マスタープラン検討委員会を基本とした「推進検討会(仮称)」を設立
- 実行計画であるアクションプランを策定
- 『だれが、なにを目標に、いつごろまでに、なにをする』を記載
- 流域全体や支川ブロック毎の現状や課題を踏まえ、具体的な各種施策等を位置づけ

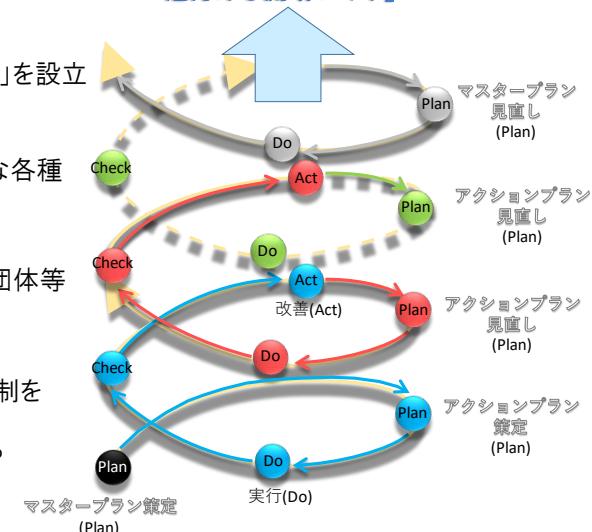
### 【アクションプランの実行】

- アクションプランで定めた各種施策等について、行政や市民団体等の各実施者が実行

### 【アクションプランのモニタリング】

- アクションプランの進捗状況を把握するためのモニタリング体制を構築し、その状況を共有
- モニタリング結果は将来計画であるマスタープランとの整合や有識者の意見も踏まえながら適宜分析・評価し、流域等の状況に応じアクションプランの見直しを検討

### マスタープランの計画理念 「人と水とみどりがつながりあう魅力ある流域づくり」

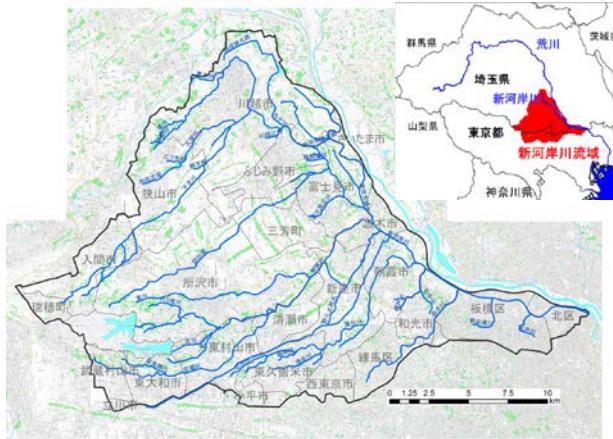


# 新河岸川流域のあらまし（現状と課題）

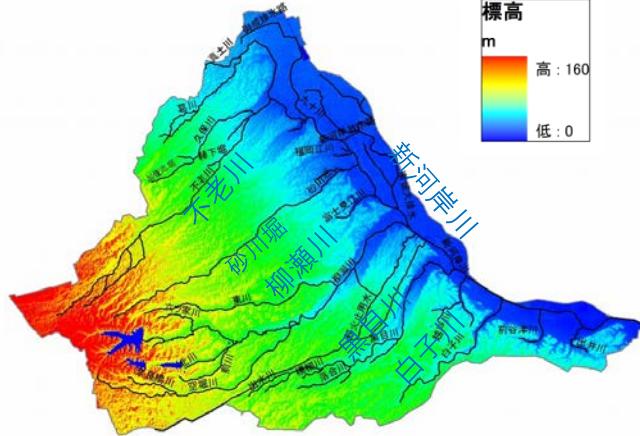
## 【本川】新河岸川流域

- 新河岸川は、埼玉県の南中部及び東京都の北中部の一部を流域に持つ流域面積411km<sup>2</sup>(村山・山口貯水池流域21km<sup>2</sup>を含む)、幹川流路延長34.6kmの荒川水系の支川であり、埼玉県と東京都が管理しています。
- 新河岸川流域は、荒川低地とその背後に広がる武蔵野台地、狭山丘陵を含んだ地域となっており、武蔵野台地や狭山丘陵から発現する中小河川が新河岸川水系を形成しています。
- 新河岸川本川へは主要4支川(不老川、柳瀬川・砂川堀、黒目川、白子川)が流れ込んでいます。
- 昭和30年代後半から流域の市街化が進んでおり、保水機能を有していた上流支川の台地上の山林や畑地、及び自然の遊水機能を有していた中・下流の河川沿いの水田・畑地でも都市化が進行しています。
- 河川水量は平成10年以降ほぼ一定で推移しており、河川水質は各地点で環境基準値を概ね達成しています。
- 近代改修前は「九十九曲り」と呼ばれたほど蛇行した河川であったため、度々洪水被害に見舞われてきました。
- 昭和30年代以降の急速な都市化の進行に対処するため、昭和53年8月、流域内の都県、関係市区町を含めた新河岸川流域総合治水対策協議会準備会を設置し、総合的な治水対策の検討が開始されました。
- 総合治水の市民への普及・啓発として、平成9年より行政と市民による「新河岸川流域川づくり連絡会」を開催し、「流域しんぶん『里川』」や「川でつながる発表会」を企画しています。
- 新河岸川は、かつて川越と江戸を結ぶ縦横な輸送路として隆盛を極めていました。上新河岸、下新河岸、扇河岸、牛子河岸、寺尾河岸をまとめて川越五河岸と呼び、特に賑わいがあったとされています。現在でも、これらの河岸場跡や舟問屋の文化財が残されています。

## ■新河岸川流域図

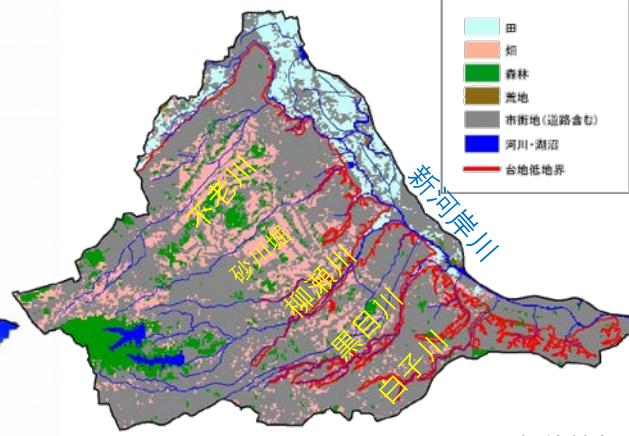


## ■標高分布図



出典：基盤地図情報

## ■土地利用分布図

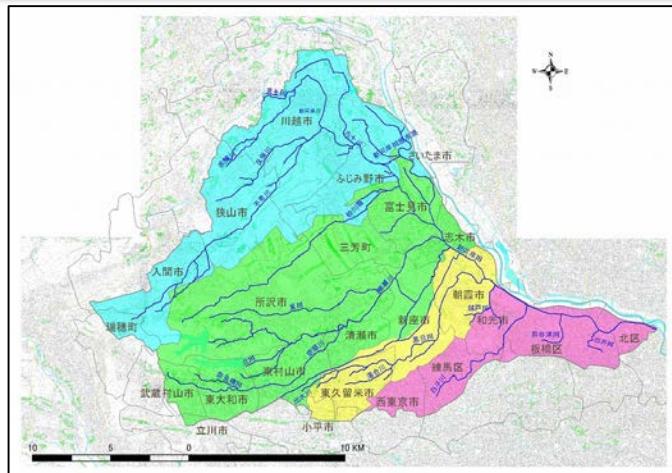


出典：国土数値情報

## 新河岸川流域のブロック分割

- 新河岸川には、特徴の大きく異なる4つの支川(不老川、柳瀬川・砂川堀、黒目川、白子川)が流入しています。
- そこで右図に示す通り、新河岸川流域を4つのブロックに区分し、各支川ブロックの現状や課題を整理しました。
- なお、新河岸川流域内の関係自治体は19市3区2町(埼玉県・東京都)となります。

<b>不老川ブロック</b> ⇒不老川、九十九川、新河岸川放水路など ⇒瑞穂町、入間市、狭山市、川越市、ふじみ野市、さいたま市	<b>柳瀬川、砂川堀ブロック</b> ⇒柳瀬川、空堀川、東川、砂川堀雨水幹線など ⇒武蔵村山市、立川市、東大和市、東村山市、清瀬市、所沢市、三芳町、富士見市、志木市、(新座市)
<b>黒目川ブロック</b> ⇒黒目川、落合川、越戸川など ⇒小平市、東久留米市、新座市、朝霞市	<b>白子川ブロック</b> ⇒白子川、前谷津川、出井川 ⇒西東京市、練馬区、和光市、板橋区、北区



## ◎支川ブロックの整理項目 (1)支川概要、(2)土地利用、(3)水量、(4)水質、(5)水辺環境・水辺利用、(6)ブロックのキーワード

### 【支川】不老川ブロック

- (1) 不老川は、東京都西多摩郡瑞穂町に源を発し、埼玉県の入間市・所沢市・狭山市を経て川越市で新河岸川に合流します。
- (2) 田、畑、森林といった自然地が支川4ブロックの中で最も多く、新河岸川本川の上流左岸には水田など昔ながらの景観も残ります。
- (3) 昭和から平成にかけて平常時の河川流量が減少してしまい、現在では雨が降らない日が続くと瀬切れが発生する期間があります。
- (4) 流域内で宅地開発が進んだことで、昭和58～60年度に3年連続で全国の水質ワースト1になるなど、水質汚濁の著しい河川でしたが、清流ルネッサンスⅡによる水質改善施策により大幅に改善されてきています。
- (5) 自然豊かな大森調節池を活用したイベントや多目的の広場として整備されている入曽調節池もあります。
- (6) ①自然地や昔ながらの景観、②雨が降らない期間が続くと瀬切れ発生期間あり、③親水施設でのイベント開催



### 【支川】柳瀬川・砂川堀ブロック

- (1) 柳瀬川は、中流部で都県境を蛇行しながら途中で北川、空堀川、東川を合流して志木市中宗岡付近で新河岸川へ流入します。
- (2) 市街化率は流域全体と概ね同程度です。上流部に狭山丘陵があるため、他ブロックと比較して森林の割合が最も大きくなります。
- (3) 支川の空堀川では平成初期から水量が少ない状態が続いており、雨が降らない日が続くと瀬切れが発生します。
- (4) 全川を通して平成15年頃には大幅に改善されており、近10年の水質は横ばいで推移しています。
- (5) 金山調節池やいろは親水公園など水辺へのアクセスが良い箇所が多く、夏場には多くの地点で川まつりが開催されています。
- (6) ①空堀川で雨が降らない期間が続くと瀬切れ発生期間あり、②狭山丘陵や三富新田など緑地・農地が多く残る、③水辺のアクセスが良い地点多い



### 【支川】黒目川ブロック

- (1) 黒目川は、東京都小平霊園内の樹林地の湧水を水源とし、東久留米市で落合川を合流後、新座市を経て朝霞市で新河岸川に合流します。
- (2) 市街化率は流域全体と比較して高く、支川ブロックでみては白子川ブロックに次いで2番目に高い値となります。
- (3) やや減少傾向にあるものの、他ブロックの主要支川と比べて落合川合流～下流までの流量は比較的豊富であることが特徴です。
- (4) 全川を通して平成15年頃には大幅に改善されており、近10年の水質も概ね良好な状態で推移しているといえます。
- (5) 名水百選に選ばれた南沢湧水群や妙音沢があり、落合川いこいの水辺は夏に清流で水遊びをする子どもたちで賑わいます。
- (6) ①豊かで清らかな流れ、②矢板護岸により川に近づけない箇所もあり、③湧水が豊富で、「平成の名水百選」選定箇所あり



### 【支川】白子川ブロック

- (1) 白子川は、練馬区大泉井頭公園の湧水を源流とし、和光市・板橋区の都県境沿を流下後板橋区三橋で新河岸川に合流します。
- (2) 他の支川ブロックと比較して、最も市街化が進行している流域で、市街化率は全体の92%に上ります。
- (3) 別荘橋付近で減少傾向が続いていますが、下水道整備完了後も同傾向であるため、近年の減少要因は別にあると考えられます。
- (4) 全川を通じて平成10年頃には大幅に改善されており、近10年の水質も概ね良好な状態で推移しています。
- (5) 白子湧水群が存在し、源流部から下流域まで豊かな生態系を育てています。また、秋には白子川源流まつりも開催されます。
- (6) ①多様な生物が生育・生息・繁殖、②下流はコンクリート三面張り護岸、③市街化が最も進行する一方、湧水箇所も多い



## ■土地利用のブロック別内訳

